コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅳ

― 2021年度学生を対象としたアンケート調査の単純集計結果 ―

Collection and Preservation of Records of Disaster Experiences of Students, Faculty and Staff in the Faculty of Law and Letters, Ehime University during the Coronavirus Pandemic（Ⅳ）: A summary statistics of a questionnaire survey of students in Academic Year 2021-22

青木　理奈・鈴木　　静・福井　秀樹
小佐井良太・石坂　晋哉・太田　響子
池　　貞姫・十河　宏行・中川　未来

１．はじめに

新型コロナウイルスの感染蔓延の長期化は、大学生にどのような影響をもたらしているのだろうか。新型コロナウイルス感染蔓延は、多くの人にとって予期しえなかった深刻かつ長期にわたる未曽有の災厄である。愛媛大学も、急速に進む感染拡大に対応して、教育提供体制が激変して2年目を終えようとしている。

今回の新型コロナウイルスのような全世界規模で起きている災厄は、記録や教訓を収集、保存し、継承していくことが次なる災厄への備えになるだろう。なにより、今のコロナ禍において刻一刻と事態が変わっていく中、時系列で保存できるよう、記録はコロナ禍の初期から継続的に収集することが重要である。よって、本プロジェクトは、今回の未曽有の事態に際し、法文学部学生の生活上の被害実態を明らかにするとともに、法文学部の緊急時対応および遠隔授業等実施に係る記録を収集し、データベース化することを最終目的とする。

昨年度、愛媛大学法文学部の学生を対象としたアンケートの実施[(1)]のほか、学生手記を収集、分析[(2)]、座談会を開催[(3)]することにより、昨年度からの学生生活を分析し

記録として保存してきた。

本調査では、コロナ禍における大学生の実態を継続的に探求し、今年度の学修状況や生活状況への影響を把握することを目的とする。そして、今年度のコロナ禍における学生生活の記録として保存し、その一部につき公表することで2020年度と2021年度の比較をし、検討していくこととする。

2．新型コロナウイルス感染拡大期における愛媛大学法文学部での遠隔授業の実施

⑴　愛媛県における新型コロナウイルス感染状況と愛媛大学の対応

新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づき、第1回（2020年4月7日～5月25日）、第2回（2021年1月8日～3月21日）、第3回（2021年4月25日～9月30日）の「緊急事態宣言」が発令されたが、愛媛県はこのうち第1回の期間中、2020年4月16日から5月14日まで「緊急事態宣言」の対象地域に含まれた。第2回、第3回の際は、愛媛県は対象地域には含まれなかったものの、県独自の警戒レベル3段階における最高レベルの「感染対策期」が3度繰り返されるなど、引き続き県内でも強い警戒態勢が維持された。

令和3（2021）年度、愛媛大学のBCP（事業継続計画）ステージは、4月9日に「イエロー」から「オレンジ」に引き上げられ、10月6日に「イエロー」に引き下げられ、11月18日に「ライトイエロー」にまで引き下げられた（2021年11月26日現在）[1)]。

この間、愛媛大学では2021年7月～9月に学生・教職員等に対するワクチンの職域接種が実施された。また、生活困窮に陥った学生の支援を目的として、支援金の給付が行われた[2)]。加えて、松山市や大学生協等から学生に対する食糧・物資支援も行われた。これらのお知らせは修学支援システムのメールにより学生に通知された。

1）愛媛大学関係者のコロナウイルス感染は、令和3（2021）年11月24日までに学生等33人、教職員7人、合計40人であると公表されている。

2）愛媛大学では令和2（2020）年5月7日に、1人30,000円の「愛媛大学緊急支援給付金」の給付を行うこととし、5月8日～5月15日の募集期間に1,219名からの応募があり、753名への給付を決定、うち723名に対し、5月29日に給付が実施された。令和3（2021）年6月2日には、1人5万円の「新型コロナウイルス感染症対応緊急支援（給付型）奨学金」の募集を開始（～6月30日）、1,000人程度への支援を予定していたが、406名からの申請があり、383名への給付を決定、8月6日に給付が実施された。同年10月14日には、申請資格範囲を拡大し、再度、「新型コロナウイルス感染症対応緊急支援（給付型）奨学金」の募集を開始（～11月5日）、650人程度への支援を予定していたが、800名からの申請があり、784名への給付を決定、12月17日に給付が実施された。

⑵　愛媛大学法文学部の学生数

2021年11月現在の愛媛大学法文学部の学部生数、大学院生数は、以下のとおりである。学部生合計は1,618人、大学院生数は38人である。学部生の内訳は、昼間主法学・政策学履修コースが333人、昼間主人文学履修コースが350人、夜間主法学・政策学履修コースが157人、夜間主人文学履修コースが172人、グローバル・スタディーズ履修コースが216人（昼間主のみ）であり、改組前の旧総合政策学科の昼間主が3人、夜間主が4人、昼間主人文学科が1人である。大学院生の内訳は、人文社会科学研究科院生が29人、改組前の法文学研究科院生が9人である。学部生と院生のうち、留学生は23人である。

⑶　愛媛大学法文学部における授業実施状況

愛媛大学法文学部は、2020年度前学期の第1クォーター期間から第2クォーター期間の授業形態は、遠隔授業を実施し、対面授業は行わなかった。2020年度後期の第3クォーター期間から第4クォーター期間の授業形態は、対面授業を可能な限り開講するとともに、遠隔授業も実施された。遠隔授業は、提供方法の違いから A と B とに分けられ、遠隔授業 A は動画等のネット配信による。遠隔授業 A もさらに、①同期型（リアルタイム型）と②非同期型（蓄積型）に分かれる。①同期型（リアルタイム型）は、Zoom、Webex などのネット会議システムを活用して、遠隔地の学習者に対してリアルタイムで授業を行う形態である。②非同期型（蓄積型）は、Moodle などの e-learning システムを活用して、教員があらかじめ Web サーバ等に蓄積した教材に対して、学習者がアクセスして学習する形態である。遠隔授業 B は、修学支援システム等のメールにより課題を与え、指導する授業形態である。

上記に基づく2020年度の授業数の内訳は、表1のとおりである。なお、授業形態は、以下の3種を組み合わせて実施することもあるので、合計数とは一致しない。

表１．2020年度授業数の内訳[3)]

2020年度	合計	対面授業	遠隔授業 A ①	遠隔授業 A ②	遠隔授業 B
（昼間主）					
1Q	180		48	49	115
2Q	192		49	44	116
3Q	175	91	72	55	19
4Q	165	80	73	51	18
前期	230		37	90	109
後期	272	53	75	107	38
（夜間主）					
1Q	41		9	11	26
2Q	41		8	9	26
3Q	50	20	21	19	8
4Q	50	20	21	20	8
前期	67		6	17	31
後期	76	11	22	41	9

（愛媛大学教育支援課法文学部チームより提供）

2021年度前学期の第1クォーター期間から第2クォーター期間の授業形態は、「遠隔授業を積極的に行いつつも、感染防御対策を徹底しながら、対面授業も可能な限り開講」することとしていたが、4月22日から「（特例的な授業を除き）遠隔授業のみ」に変更された。この結果、演習系科目を中心に対面授業とし、段階的に講義系科目も対面授業を拡大した。対面授業数と遠隔授業数の内訳は、表2のとおりである。

後学期の第3クォーター期間（9月24日～12月3日）は「遠隔授業を基本とするが、徹底した感染防御対策のもと対面授業も可能な限り開講」とされた。第4クォーター期間（12月4日～3月31日）は「徹底した感染防御対策のもと対面授業を実施」する方針が示されている（2021年11月26日現在）。

3）愛媛大学法文学部では、セメスター制とクォーター制を併用している。

表２．2021年度授業数の内訳

2021年度	合計	対面授業	遠隔授業Ａ①
（昼間主）			
1Q	136	94	42
2Q	145	106	39
前期	280	107	173
（夜間主）			
1Q	44	28	16
2Q	44	25	19
前期	65	32	33

（愛媛大学教育支援課法文学部チームより提供）

３．対象と方法

本アンケート調査の対象者は、法文学部の学生であり、調査期間は、2021年10月22日～11月22日である。

調査方法は、インターネットでの無記名自記式アンケートを採用した。プロジェクトに所属する教員から学生へ周知するとともに、教育支援課法文学部チームから法文学部の学生へ一斉送信による周知を行った。

最終的に231名から回答が得られた。内容を精査したところ、すべてが有効回答であった[4)]。

アンケート内容は、⑴ 回答者の属性について5項目、⑵ 遠隔授業においての学修面が8項目、⑶ コロナ禍での大学や大学以外からのサポート面3項目、⑷ 長期化するコロナ禍での生活面が7項目、合計23項目から構成されている。アンケートの回答は必須とする選択方式の項目と、必須ではない自由記述の項目を作成した。アンケートを資料1に示す。

4）回答の精査に際して、①自由記述を含め回答がすべて同じもの、②自由記述は未記入だが他の回答が全て同じであり、かつ、回答送信時間が近接しているもの（5分以内）の2つについては、重複回答とみなして削除を予定していたが、該当する回答はなかった。

４．倫理的配慮

本調査において、対象者に対する倫理的配慮を以下のようにした。

⑴　不必要な負荷や負担への配慮：回答は任意でありかつ匿名である。対象者に不必要な負荷や負担は生じない。

⑵　個人のプライバシー保護への配慮：匿名で回答する。アンケート結果についても守秘義務を厳守し、個人のプライバシーを厳重に保護する。

⑶　協力拒否への不利益への配慮：回答は任意であり、協力拒否への不利益は生じない。

⑷　調査協力への理解や同意：担当教員からの説明およびアンケート冒頭に調査協力への理解を求める。

その他、アンケート作成において、個人情報が含まれないようにした。参加者には調査の趣旨が十分伝わるように冒頭に説明を書いた上で、参加は任意であることを説明し、アンケートに回答し送信された時点で同意とした。

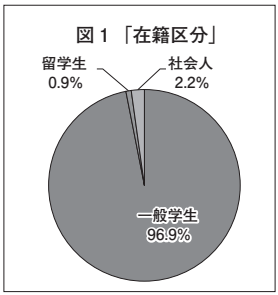
５．結　果

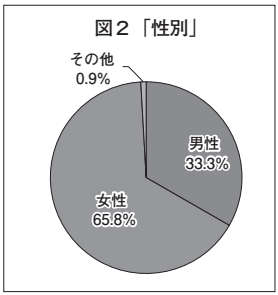
本調査は、⑴ 回答者の属性、⑵ コロナ禍の学修面について、⑶ コロナ禍でのサポート面について、⑷ コロナ禍の生活面について、学生の状況を把握した。

⑴　回答者の属性

１）回答者231人の在籍区分（身分）は、「一般学生」224人（96.9%）、「社会人」5人（2.2%）、「留学生」2人（0.9%）である（図1）。

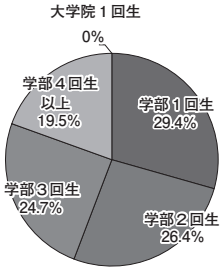
２）性別は、「男性」77人（33.3％）、「女性」152人（65.8％）、「その他」2人（0.9%）である（図2）。





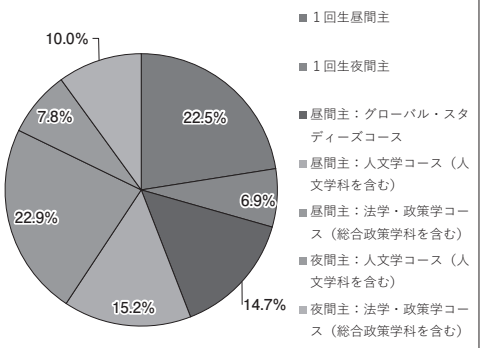
3）学年は、「学部1回生」68人（29.4％）、「学部2回生」61人（26.4％）、「学部3回生」57人（24.7％）、「学部4回生以上」45人（19.5％）、「大学院1回生」0人、「大学院2回生以上」0人である（図3）。

図３「学年」



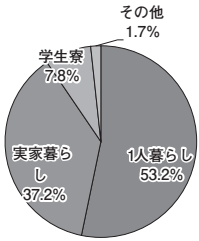
4）所属コースは、「1回生昼間主」52人（22.5％）、「1回生夜間主」16人（6.9％）、「昼間主：法学・政策学コース（総合政策学科を含む）」53人（22.9％）、「夜間主：法学・政策学コース（総合政策学科を含む）」23人（10.0％）、「昼間主：人文学コース（人文学科を含む）」35人（15.2％）、「夜間主：人文学コース（人文学科を含む）」18人（7.8％）、「昼間主：グローバル・スタディーズコース」34人（14.7％）である（図4）。

図４「所属コース」



5）2021年度前期の居住形態は、「1人暮らし」123人（53.2％）、「実家暮らし」86人（37.2％）、「学生寮」18人（7.8％）、「その他」4人（1.7％）である（図5）。

図５「2021年度前期の居住形態」



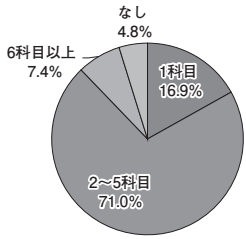
⑵　コロナ禍の学修面について

前期（1Q/2Q）における法文学部と共通教育の遠隔授業について単純集計の結果を示す。

1）Zoom 等を用いた同期型授業数

「Zoom 等の同期型授業は何科目ありましたか」の質問に対し、「1科目」39人（16.9%）、「2～5科目」164人（71.0%）、「6科目以上」17人（7.4%）、「なし」11人（4.8%）である（図6）。

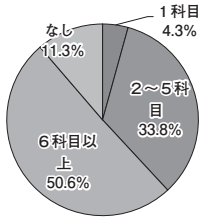
図６「Zoom等を用いた同期型授業数」



2）Moodle を用いた非同期型授業数

「Moodle を利用した非同期型授業は、何科目ありましたか」の質問に対し、「1科目」10人（4.3%）、「2～5科目」78人（33.8%）、「6科目以上」117人（50.6%）、「なし」26人（11.3%）である（図7）。

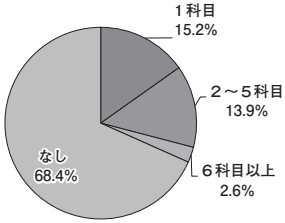
図７「Moodleを用いた非同期型授業数」



3）修学支援システムやメールを利用した非同期型授業数

「修学支援システムやメールのみを利用した非同期型授業は、何科目ありましたか」の質問に対し、「1科目」35人（15.2%）、「2～5科目」32人（13.9%）、「6科目以上」6人（2.6%）、「なし」158人（68.4%）である（図8）。

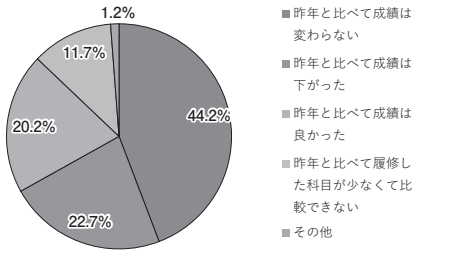
図８「修学支援システムやメールを利用した非同期型授業数」



4）前期の成績に対する学生の主観的評価

「昨年までと比較して、前期の成績（単位取得数、評価）はいかがでしたか」の質問に対し、「1回生なので昨年と比べられない」68人（29.4％）を除く163人の回答は、「昨年と比べて成績は良かった」33人（20.2％）、「昨年と比べて成績は変わらない」72人（44.2％）、「昨年と比べて成績は下がった」37人（22.7％）、「昨年と比べて履修した科目が少なくて比較できない」19人（11.7％）、「その他」2人（1.2％）である（図9）。

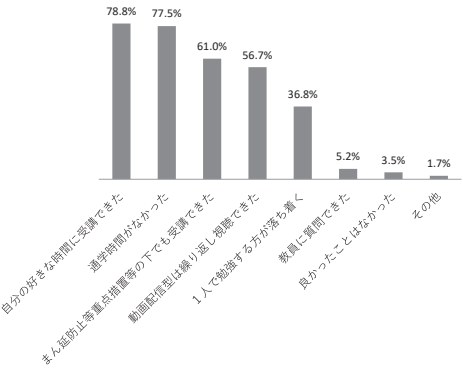
図９「昨年と比較した前期の成績（学生の主観）」



5）遠隔授業の利点

「遠隔授業で、良かったことがあれば教えてください（複数回答可）」の質問に対し、「自分の好きな時間に受講できたこと」182人（78.8％）、「通学時間がなかったこと」179人（77.5）、「緊急事態宣言、まん延防止等重点措置等の下でも受講できたこと」141人（61.0％）、「動画配信型の教材を繰り返し視聴できたこと」131人（56.7％）、「1人で勉強する方が落ち着くこと」85人（36.8％）、「教員に質問できたこと」12人（5.2％）、「良かったことはなかった」8人（3.5％）、「その他」4人（1.7％）である（図10）。

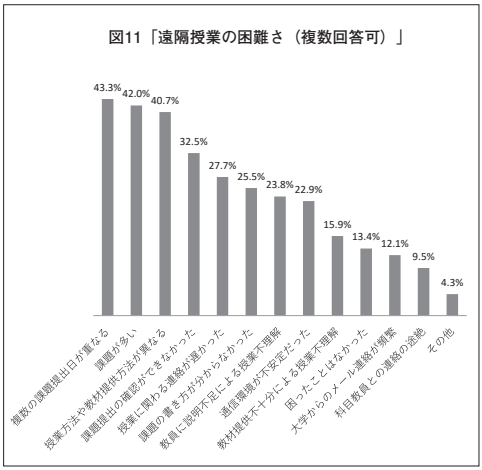
図10「遠隔授業の利点（複数回答可）」



6）遠隔授業の困難さ

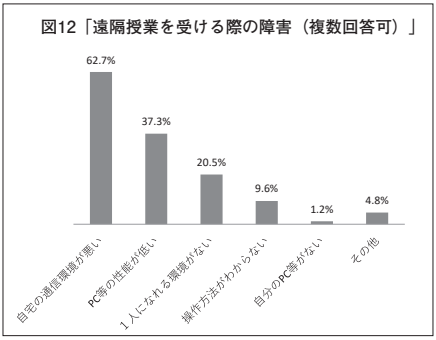
「遠隔授業で、困ったことについて教えてください（複数回答可）」の質問に対し、「複数の科目の課題やレポート提出日が重なること」100人（43.3％）、「課題

やレポート提出の回数が多いこと」97人（42.0％）、「授業科目により授業方法（同期型または非同期型等）や教材提供方法（Moodle またはメール等）が異なり、分かりにくかったこと」94人（40.7％）、「出席している授業で、課題の提出がきちんとできているか、確認ができなかったこと」75人（32.5％）、「大学や担当教員からの授業に関わる連絡が遅かったこと」64人（27.7％）、「課題やレポートの書き方が分からなかったこと」59人（25.5％）、「教員による説明が少なく授業内容を理解できなかったこと」55人（23.8％）、「通信環境の関係で、同期型の授業受信が不安定だったこと」53人（22.9％）、「教材提供不十分で、授業内容を理解できなかったこと」36人（15.9％）、「困ったことはなかった」31人（13.4％）、「大学や担当教員からのメール連絡が頻繁であったこと」28人（12.1％）、「科目教員と連絡がつかなかったこと、つきにくかったこと」22人（9.5％）、「その他」10人（4.3％）である（図11）。



7）遠隔授業を受ける際の障害

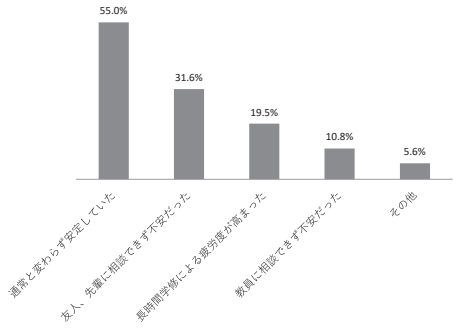
「遠隔授業を受けるのに障害になっていたことはどのようなことですか（複数回答可）」の質問に対し、「障害になることはなかった」148人（64.1％）を除く83人の回答は、「自宅の通信環境が整っていなかった（通信速度が遅い等も含む）」52人（62.7％）、「自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）の性能が低かった」31人（37.3％）、「自宅で自分1人になれる部屋（環境）がなかった」17人（20.5％）、「Moodle などの操作方法がわからなかった」8人（9.6％）、「自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）がなかった」1人（1.2％）、「その他」4人（4.8％）である（図12）。



8）遠隔授業を受けていた時の気持ち

「遠隔授業を受けていた時の気持ちについて教えてください（複数回答可）」の質問に対し、「通常と変わらず、安定的に遠隔授業を受けることができた」127人（55.0％）、「困ったことを友達や先輩に相談できず、不安になった」73人（31.6％）、「昨年以上に長時間の学修を行ったため、疲労度が高まった」45人（19.5％）、「困ったことを教員に相談できず、不安になった」25人（10.8％）、「その他」13人（5.6％）である（図13）。

図13「遠隔授業を受けていた時の気持ち（複数回答可）」



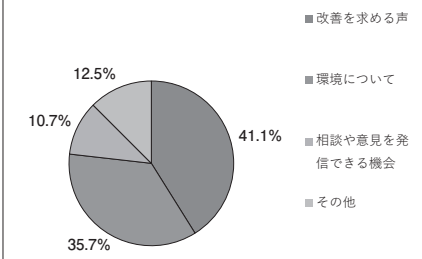
⑶ コロナ禍でのサポート面について

コロナ禍での大学や大学以外からのサポート面について単純集計を示す。

1）遠隔授業を行う際に必要とされる大学からのサポート（自由記述）

「遠隔授業の際に、あったら良いと思う大学からのサポートはどのようなものでしたか」の自由記述項目に対し、回答者は56人（24.2％）である。得られた回答（複数回答有）を分類した結果、「システム機能改善、授業方法や指導内容について改善を求める声」23人（41.1%）、サポートを求める具体的な回答が「環境についてのサポート」20人（35.7%）、「相談や意見を発信できる機会を設ける等のサポート」6人（10.7%）、「その他」7人（12.5%）である（図14）。具体的な回答を、資料2に示す。

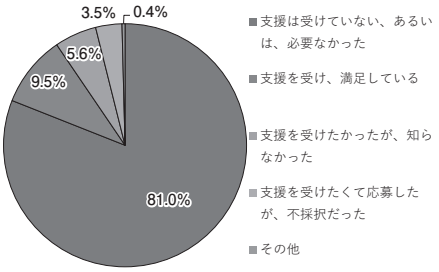
図14　「遠隔授業を行う際に必要とされる大学からのサポート（自由記述）」



2）大学独自の緊急支援の必要性

「これまで大学独自の緊急支援を受けたことがありますか」の質問に対し、「支援は受けていない、あるいは、必要なかった」187人（81.0％）、「支援を受け、満足している」22人（9.5％）、「支援を受けたかったが、知らなかった」13人（5.6％）、「支援を受けたくて応募したが、不採択だった」8人（3.5％）、「支援を受けたが、不満だった」0人、「その他」1人（0.4％）である（図15）。

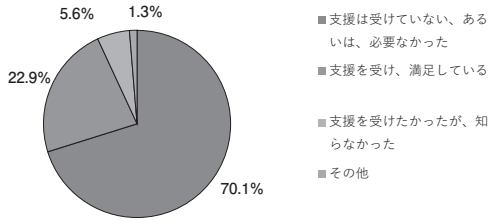
図15「大学独自の緊急支援の必要性」



3）松山市等からの支援の必要性

「松山市や大学生協等から学生への食糧支援、生理用品の提供などを受けたことがありますか」の質問に対し、「支援は受けていない、あるいは、必要なかった」162人（70.1％）、「支援を受け、満足している」53人（22.9％）、「支援を受けたかったが、知らなかった」13人（5.6％）、「支援を受けたが、不満だった」0人、「その他」3人（1.3％）である（図16）。

図16「松山市等からの支援の必要性」



⑷　コロナ禍の生活面について

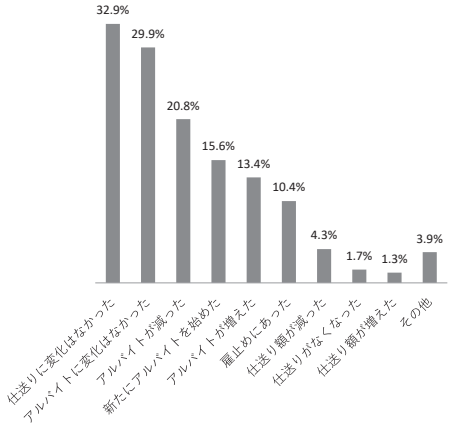
コロナ禍の生活面について単純集計の結果を示す。

1）コロナ禍の経済的影響

「前期（1Q/2Q）の遠隔授業期間において、どのような経済的な影響がありましたか（複数回答可）」の質問に対し、「保護者からの仕送りに変化はなかった」74人（32.9%）、「アルバイトに入る回数や時間に変化はなかった」67人（29.0%）、

「アルバイトに入る回数や時間が減った」48人（20.8%）、「新たにアルバイトを始めた」36人（15.6%）、「アルバイトに入る回数や時間が増えた」31人（13.4%）、「アルバイト先が休業したり雇止めにあった」24人（10.4%）、「保護者からの仕送り額が減った」10人（4.3%）、「保護者からの仕送りがなくなった」4人（1.7%）、「保護者からの仕送り額が増えた」3人（1.3%）「その他」9人（3.9%）、である（図17）。

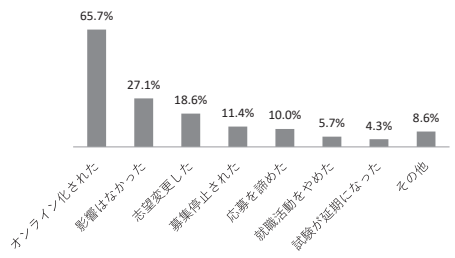
図17「コロナ禍の経済的影響（複数回答可）」



2）就職活動への影響

「就職活動にどのような影響がありましたか（複数回答可）」の質問に対し、「4回生以上ではない、または就職活動はしていない」161人（69.7%）を除く、70人の回答は、「Web面接など、オンライン化された」46人（65.7%）、「就職活動に変化はなかった」19人（27.1%）、「志望業界を見直した（変更した）」13人（18.6%）、「希望していた企業や自治体が募集を停止した」8人（11.4%）、「希望していた企業や自治体の応募を諦めた」7人（10.0%）、「就職活動をやめた」4人（5.7%）、「公務員試験や就職試験が延期になった」3人（4.3%）、「その他」6人（8.6%）である（図18）。

図18「就職活動への影響（複数回答可）」

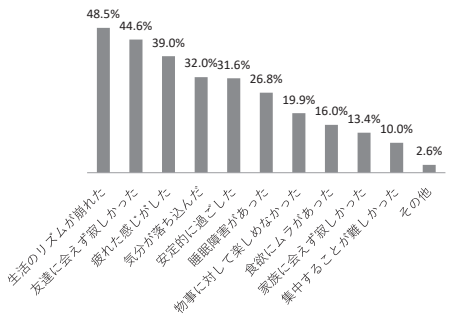


3）メンタルヘルスへの影響

「遠隔授業期間において、メンタルヘルスにどのような変化がありましたか（複数回答可）」の質問に対し、「生活のリズムが崩れた」112人（48.5%）、「友達に会えなかったり課外活動が行えず寂しかった」103人（44.6%）、「疲れた感じ

がした、または気力がなかった」90人（39.0%）、「気分が落ち込んだ」74人（32.0%）、「通常と変わらず、安定的に過ごした」73人（31.6%）、「寝つきが悪くなった、途中で目が覚めた、反対に眠り過ぎた」62人（26.8%）、「物事に対してほとんど興味が無くなった、楽しめなかった」46人（19.9%）、「食欲がなかった、あるいは食べ過ぎた」37人（16.0%）、「家族に会えず寂しかった」31人（13.4%）、「新聞やテレビを見ることなどに集中することが難しかった」23人（10.0%）、「その他」6人（2.6%）である（図19）。

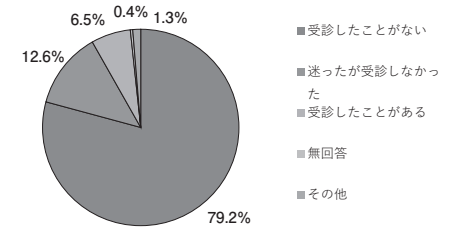
図19「メンタルヘルスへの影響（複数回答可）」



4）医療機関の受診について

「長期化するコロナ禍で、メンタル不調により医療機関やカウンセリングに行きましたか」の質問に対し、「受診したことがない」183人（79.2%）、「迷ったが受診しなかった」29人（12.6%）、「受診したことがある」15人（6.5%）、「無回答」1人（0.4%）、「その他」3人（1.3%）である（図20）。

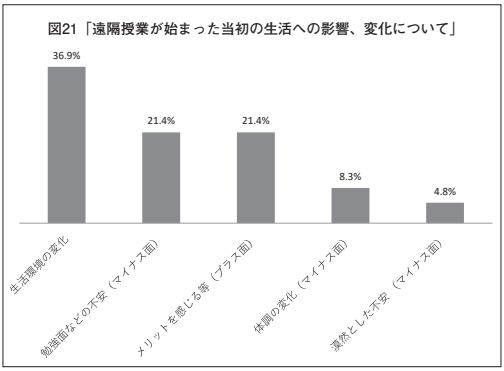
図20「医療機関やカウンセリングの受診」



5）遠隔授業が始まった当初の生活への影響、変化について（自由記述）

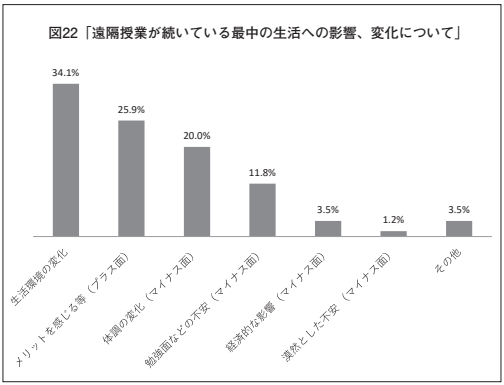
2021年度に「遠隔授業が始まった4月、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか」の自由記述項目に対し、回答者は84人（36.4%）である。得られた回答（複数回答有）を分類した結果、「生活リズムが崩れる、実家に帰る等生活環境の変化の記述」31人（36.9%）、「勉強面など精神面への影響（マイナス面）の記述」18人（21.4%）、「心身環境等に余裕（メリット）を感じる等（プラス面）の記述」18人（21.4%）、「体調の変化（マイナス面）の記述」

7人（8.3%）、「コロナ禍に対する漠然とした不安（マイナス面）の記述」4人（4.8%）、「経済的な影響（マイナス面）の記述」0人、「その他」6人（7.1%）である（図21）。具体的な回答を、資料3に示す。



6）遠隔授業が続いている最中の生活への影響、変化について（自由記述）

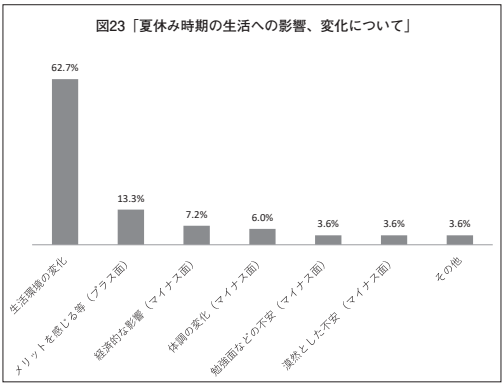
「その後、遠隔授業が1、2カ月続いた頃、あなたの生活において、どのような影響がありましたか」の自由記述項目に対し、回答者は85人（36.8%）である。得られた回答（複数回答有）を分類した結果、「生活リズムが崩れる、実家に帰る等生活環境の変化の記述」29人（34.1%）、「心身環境等に余裕（メリット）を感じる等（プラス面）の記述」22人（25.9%）、「体調の変化（マイナス面）の記述」17人（20%）、「勉強面など精神面への影響（マイナス面）の記述」10人（11.8%）、「経済的な影響（マイナス面）の記述」3人（3.5%）、「コロナ禍に対する漠然とした不安（マイナス面）の記述」1人（1.2%）、「その他」3人（3.5%）である（図22）。具体的な回答を、資料4に示す。



7）夏休み時期の生活への影響、変化について（自由記述）

「夏休み、あなたの生活において、どのような影響がありましたか」の自由記述項目に対し、回答者は83人（35.9%）である。得られた回答（複数回答有）を分類した結果、「生活リズムが崩れる、実家に帰る等生活環境の変化の記述」52人（62.7%）、「心身環境等に余裕（メリット）を感じる等（プラス面）の記述」11人（13.3%）、「経済的な影響（マイナス面）の記述」6人（7.2%）、「体調の変

化（マイナス面）の記述」5人（6.0％）、「勉強面など精神面への影響（マイナス面）の記述」3人（3.6％）、「コロナ禍に対する漠然とした不安（マイナス面）の記述」3人（3.6％）、「その他」3人（3.6％）である（図23）。具体的な回答を、資料5に示す。



6．考　察

本調査結果は、長く続くコロナ禍において、大学が今後どのような取り組みを進めてゆく必要があるのか、数多くの示唆を与えるものとなっている。

昨年度から続くプロジェクトの調査から読み取れる傾向として、今までの愛媛大学法文学部における学生のコロナ禍への対応は、長く続くコロナ疲れを感じつつも、学修方法や日常生活の過ごし方を自ら工夫しておおむね乗り切ったことがわかる。遠隔授業の困難さにあらわれているように、遠隔授業では「課題の多さ」や「課題等の提出日の重複」について2人に1人が困っているなど、2年目でも同様な困難さを抱えている。一方で、学生間での遠隔授業の捉え方や影響には格差が大きいことも同じであった。遠隔授業中心の学生生活が2年目と長期化し、自宅での学修や生活ともに順応してきた学生が多い一方、メンタルヘルスに困難を感じ続けていた学生もいる。

以下では、⑴ コロナ禍の学修面、⑵ コロナ禍でのサポート面、及び⑶ コロナ禍の生活面についての単純集計から、全体の傾向を考察していく。また、以下で示す昨年度の調査データは、すべて拙稿、参考文献⑴によるものである。

⑴　コロナ禍の学修面について

授業方法については、「6科目以上あった」との回答が最も多かったのは「Moodleを利用した非同期型授業」であり、「Zoom 等の同期型授業」は、2～5科目あったと回答した学生が多かった。また、「修学支援システムやメールのみを利用した非同期型授業」は、7割近い学生が1科目もなかったと回答している。大学の方針として、2020年度後期から「修学支援システムやメールのみを利用した非同期型授業は、原則行わない」方針に変更されたことの影響もあるだろうが、昨年度の同時期での調査では、8割近い学生が、1科目以上あったと回答しているところから、遠隔授業導入から

2年目をむかえ、Moodle や Zoom を用いた授業が多数を占め定着していることがうかがえる。

また、成績に関しては、「昨年と変わらない」学生が4割近く多くを占めたが、変化があった学生の中では「成績が良くなった」学生より、「悪くなった」学生の方が多い結果であった。この回答も昨年度と同じ傾向にあり、遠隔授業に変更されたことによる理解度の低下によるものか、コロナ以前でも学年があがるごとに成績が下がる学生は一定数いたことから、授業形態の変化と関係しないのかについては読み取ることができない。

遠隔授業で困ったこと（複数回答可）としては、回答者の4割にものぼる学生が「複数の科目の課題やレポート提出日が重なったこと」、「課題やレポート提出の回数が多いこと」、「授業科目により授業方法（同期型または非同期型等）や教材提供方法（Moodle またはメール等）が異なり、分かりにくかったこと」を挙げており、昨年同様、課題としてレポートが多いうえ、その締め切りに追われた様子がうかがえる。遠隔授業が2年目を迎えても、学生の感じる困難さはこの点に集中している。一方で、昨年度との相違も見えた。昨年度は、「教員による説明が少なく授業内容を理解できなかったこと」は、回答者の半数近く（45.6%）が当てはまると回答していたが、今年度は2割にとどまった。これらは、先に述べた「修学支援システムやメールのみを利用した非同期型授業」が少なくなったことに加え、提供する教員も遠隔授業に慣れてきたことによる、授業の質の向上であることが推測される。

遠隔授業で良かったこと（複数回答可）としては、回答者の8割近い学生が「自分の好きな時間に受講できたこと」や「通学時間がなかったこと」を挙げている。次いで、半数以上の学生が「緊急事態宣言、まん延防止等重点措置等の下でも受講できたこと」や「動画配信型の教材を繰り返し視聴できたこと」を挙げており、昨年同様、自由に学修の時間を決めることができること、通学時間がなくなったこと、学修したい科目は何度も学修した意欲がうかがえる。遠隔授業の利点を問う項目のうち、「自分の好きな時間に受講できたこと」以外の全てにおいて、昨年より該当者が多かった。そして、「良かったことはなかった」と回答した学生が1割以下（3.5%）だったことからも、多くの学生が遠隔授業に対し、なんらかのメリットを感じていることも分かった。これらは、学生自身も遠隔授業に慣れてきたことによる影響と、授業を提供する教員の改善のあらわれとも言える。

また、遠隔授業を受ける際には、通信機器が必要とされるが、「障害になることはなかった」と回答した学生が6割以上いた。通信上の障害があった学生については、「自宅の通信環境が整っていなかった（通信速度が遅い等も含む）」と回答した学生が6割と一番多かった。これらの問題も昨年と変わっておらず、自宅での遠隔授業を受

けるための環境整備の困難さは継続しているとみてよいであろう。

遠隔授業を受けていた時の気持ち（複数回答可）については、「困ったことを友達や先輩に相談できず、不安になった」学生が昨年度は半数近く（45.6%）いたのに対し、今年度は3割の回答にとどまった。今年度の学生は、半数以上が「通常と変わらず、安定的に遠隔授業を受けることができた」と回答しており、メンタル面は、昨年度より落ち着いていた者が多かったことがうかがえる。

⑵　コロナ禍でのサポート面について

遠隔授業の際に、あったら良いと思う大学からのサポートを自由記述で回答してもらった。自由記述の回答者は、全体の約2割であり、回答の内訳としては「システム機能改善、授業方法や指導内容について改善を求める声」と「環境についてのサポート」がほとんどだった（43件）。具体的にみると、「遠隔授業受講可能な教室の提供」、「Wi-Fi ルータの貸し出し」などがあり、大学側は既にサポート（提供）している内容も含まれていた。大学側からのサポートの周知が行き届いていないことが推測される。

今年から新設した大学独自の緊急支援の必要性を問う質問では、「支援は受けていない、あるいは、必要なかった」学生が回答者の8割であった。支援を受けた学生は、9.5%と少数であったが、全員が「支援を受け、満足している」と回答している。一方、「支援を受けたかったが、知らなかった」が5.6%と少数ながらいた。このことは、大学による緊急支援の周知の課題といえる。また、「支援を受けたが不満だった」学生は0人だったことからも、緊急支援は学生のニーズに沿うものであったと推測する。

さらに、松山市や大学生協から食糧支援や生理用品の提供が行われたが、回答者のうち「支援は受けていない、あるいは、必要なかった」者は7割を占める。支援を受けた者は「支援を受け、満足している」が22.9%で、不満だった者はいなかった。大学の緊急支援や松山市等からの支援の質問から、なんらかの経済的及び物品等の支援を必要とする者は、回答者全体の1～2割等であった。コロナ禍が長期化するなかで、経済的支援等の必要性は継続することが予測される。こうした支援は、今後も必要性を増すことが予想される。

⑶　コロナ禍の生活面について

経済的な変化に関する質問では、「保護者からの仕送りに変化はなかった」、「アルバイトに入る回数や時間に変化はなかった」がともに3割と一番多かった。昨年度は、「アルバイトに入る回数や時間が減った」が約3割であり、「アルバイトに入る回数や

時間に変化はなかった」（23.4％）を上回っていたことから、学生のアルバイトは継続し、かつ安定している状態になっている者が増えていることがうかがわれる。

また、就職活動での影響は、「Web 面接など、オンライン化された」とする回答が昨年度と同じく7割近かった。しかし、昨年度との違いは、就職試験が延期になった自治体等や企業が少なかったことである。

また、メンタルヘルスに対する変化では、「生活のリズムが崩れた」学生が一番多く回答者の2人に1人が回答していた。昨年度も「生活のリズムが崩れた」学生が一番多く6割の学生が該当していたので、いつでも受講できる遠隔授業（特に非同期型授業）の場合、学修時間の定期的な確保を含め生活時間を規律することに困難を感じている者が多く、この点が大学生の生活上の大きな課題であることがうかがえる。一方、「安定的に過ごした」と回答した学生が、昨年度の25.1％より若干増えて31.6％に増えたものの、全体の3割ほどの学生しか該当していない。外見上はうまく過ごせているとみられる学生も、精神面での影響がみえる結果となった。そしてそれらは、医療機関の受診を問う回答にも反映されている。回答者のうち8割近い学生が「受診したことがない」と回答したものの、「迷ったが受診しなかった」と「受診したことがある」を合わせると2割近くにものぼる。学生が、長期化するコロナ禍での学生生活に辛さを感じており、長期化するにつれて精神面の支援も大きな課題となっている。

コロナ禍において、生活への影響を問う自由記述では、「遠隔授業が始まった4月」と、「遠隔授業が続いている最中」、さらに「夏休みの時期」について質問した回答では、いずれも「生活リズムが崩れる、実家に帰る等生活環境の変化の記述」が一番多かった。今年度は、愛媛大学は感染状況を慎重に判断するなかでも、可能な限り対面授業の実施を目指していた。そのため、感染状況により遠隔授業から対面授業に複数回にわたり変更になった授業もあった。こういった変化に対して、少し疲れがでていた学生もいるのかもしれない。今年の回答で、昨年度との違いで一番大きかったことは、「コロナ禍に対する漠然とした不安の記述」が今年度はいずれも少なかったことだ。昨年度、遠隔授業が始まった当初漠然とした不安を感じた学生が19.5％から今年度は4.8％、遠隔授業が続く中漠然とした不安を感じた学生が、昨年度は20.7％から今年度は1.2％、夏休み期間漠然とした不安を感じた学生が昨年度は7.7％から今年度は3.6％といずれも少ない結果となった。状況が良くなっているわけではないが、昨年度「コロナ禍」という生活を経験してきており、何が起こるか予測不可能な状態から、ある程度予測することができる状態になりつつある。2年間のうちでも、感染者数の増減や感染状況が激変する環境に、学生が適応したり、適応しようと模索していく様子が読み取れる。

本調査に寄せられた愛媛大学法文学部在籍学生の回答からは、昨年度の調査時から引き続き学生たちは様々な困りごとやメンタル面の不調などを抱えつつもおおむね前向きに学業に取り組んでいる傾向がうかがわれた。

しかし、アンケートと同時に募集した学生の大学生活にかかわる手記の分析から、依然として昨年度から継続的に辛い状況を記述している学生も存在しており、コロナ禍が長期化するほど、辛さの程度は個人差がさらに大きくなっていることがわかっている。この点については、別稿に譲る。今後も、手記の収集や座談会の開催により、個人差がある問題については、引き続き学生の生の声を聞くことにより解析を進めていきたい。

7．おわりに

感染力が高い新型コロナウイルスの変異株が次々と発生する中、今夏の第5波の感染爆発は秋になり減少傾向に転じた。しかし、第6波を警戒している2021年11月末現在、未だに収束の兆しが見えないまま、感染防止対策を続けながらの教育が続いている。

愛媛大学では昨年度の経験を活かし、感染防止対策を十分に講じた上で、可能な限り対面授業を実施している。また、図書館等の大学施設についても、可能な限り利用できるよう工夫している。登校に不安感や抵抗感がある学生も存在することから、遠隔授業と対面授業のハイブリッド型教育を実施している授業もあり、これらは、今後の大学教育において、教育の質の向上としても期待できるであろう。

この災厄から得られた教訓を無駄にしないように、今後も継続的に手記の募集や座談会を開催し、学生・教員双方の生の声を収集・保存していきたい。

謝辞

今回、アンケート調査に携わって頂きました法文学部の教員、ならびに回答頂きました学生の方々に感謝の意を表します。

また、この研究は、令和3年度法文学部戦略経費、令和3年度愛媛大学教育改革促進事業（愛大教育改革GP）及びJSPS科研費19K21723の助成金交付により研究が遂行されたものです。

参考文献

⑴　青木理奈・鈴木靜・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉「コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅰ ―学生を対象としたアンケート調査の単純集計結果―」愛媛大学法文学部論集第50号（社会科学編），pp37-68. 2021. 2月

⑵　青木理奈・鈴木靜・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉「コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅲ ―2020年度学生手記の分析―」愛媛大学法文学部論集第51号（社会科学編），pp93-111. 2021. 9月

⑶　青木理奈・鈴木靜・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉「コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅱ ―2020年度学生座談会報告書―」愛媛大学法文学部論集第51号（社会科学編），pp117-138. 2021. 9月

付録内容

資料1. コロナ禍における法文学部学生の学修・生活への影響アンケート
資料2. 遠隔授業を行う際に必要とされる大学からのサポート（自由記述の全回答）
資料3. 遠隔授業が始まった当初の生活への影響、変化について（自由記述の全回答）
資料4. 遠隔授業が続いている最中の生活への影響、変化について（自由記述の全回答）
資料5. 夏休み時期の生活への影響、変化について（自由記述の全回答）

資料1.【2021年度】コロナ禍における法文学部学生の学修・生活への影響アンケート

このアンケートは、法文学部戦略経費「コロナ禍における法文学部学生の被災記録の収集、保存ー将来の災害に備えてのデータベース化と今後の課題ー」の一環として、学生の学修・生活への影響をお聞きするものです。これは、学術目的の調査であり、後世に役立てるための記録として保存します。

本調査の回答により収集された情報は、個人情報保護法にしたがって適切に管理されます。このアンケートは、原則匿名ですが、今後手記を提供してくださる場合は、お名前と連絡先をお聞きいたします。アンケート内容や個人情報の取り扱いなどに疑義がある場合は青木理奈（********@ehime-u.ac.jp）にお問い合わせください。

本アンケート調査の回答にはおよそ5～10分かかります。ご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

代表　青木理奈・鈴木　靜

* 必須

1．あなたは次のどれに当てはまりますか *
　1つだけマークしてください。
○　一般学生
○　社会人
○　留学生
○　その他：

2．性別を教えてください *
　1つだけマークしてください。
○　男性
○　女性
○　その他

3．学年を教えてください *
　1つだけマークしてください。
○　学部1回生
○　学部2回生
○　学部3回生
○　学部4回生以上
○　大学院1回生
○　大学院2回生以上

4．コース等を教えてください *
1つだけマークしてください。
○ 1回生昼間主
○ 1回生夜間主
○ 昼間主：法学・政策学コース（総合政策学科を含む）
○ 夜間主：法学・政策学コース（総合政策学科を含む）
○ 昼間主：人文学コース（人文学科を含む）
○ 夜間主：人文学コース（人文学科を含む）
○ 昼間主：グローバル・スタディーズコース
○ 大学院（法文学研究科総合政策専攻・人文社会科学研究科法学コース）
○ 大学院（法文学研究科人文学専攻・人文社会科学研究科人文学コース）

5．2021年度前期の居住形態を教えてください *
1つだけマークしてください。
○ 1人暮らし
○ 実家暮らし
○ 学生寮
○ その他：

【学修面】
この設問以降、2021（令和3）年度前期（1Q/2Q）における法文学部と共通教育の遠隔授業についてお聞きします

1．Zoom 等の同期型授業は何科目ありましたか *
1つだけマークしてください。
○ 1科目
○ 2～5科目
○ 6科目以上
○ なし

2．Moodle を利用した非同期型授業は、何科目ありましたか *
1つだけマークしてください。
○ 1科目
○ 2～5科目
○ 6科目以上
○ なし

3．修学支援システムやメールのみを利用した非同期型授業は、何科目ありましたか *
1つだけマークしてください。
○ 1科目
○ 2～5科目
○ 6科目以上
○ なし

4．昨年までと比較して、前期の成績（単位取得数、評価）はいかがでしたか *
1つだけマークしてください。
○　昨年と比べて成績は良かった
○　昨年と比べて成績は変わらない
○　昨年と比べて成績は下がった
○　1回生なので昨年と比べられない
○　昨年と比べて履修した科目が少なくて比較できない
○　その他：

5．遠隔授業で、困ったことについて教えてください（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。
○　大学や担当教員からの授業に関わる連絡が遅かったこと
○　大学や担当教員からのメール連絡が頻繁であったこと
○　授業科目により授業方法（同期型または非同期型等）や教材提供方法（Moodle またはメール等）が異なり、分かりにくかったこと
○　教材提供不十分で、授業内容を理解できなかったこと
○　教員による説明が少なく授業内容を理解できなかったこと
○　通信環境の関係で、同期型の授業受信が不安定だったこと
○　課題やレポートの書き方が分からなかったこと
○　課題やレポート提出の回数が多いこと
○　複数の科目の課題やレポート提出日が重なること
○　科目教員と連絡がつかなかったこと、つきにくかったこと
○　出席している授業で、課題の提出がきちんとできているか、確認ができなかったこと
○　困ったことはなかった
○　その他：

6．遠隔授業で、良かったことがあれば教えてください（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。
○　緊急事態宣言、まん延防止等重点措置等の下でも受講できたこと
○　自分の好きな時間に受講できたこと
○　動画配信型の教材を繰り返し視聴できたこと
○　教員に質問できたこと
○　通学時間がなかったこと
○　1人で勉強する方が落ち着くこと
○　良かったことはなかった
○　その他：

7．遠隔授業を受けるのに障害になっていたことはどのようなことですか（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。
○　自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）がなかった
○　自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）の性能が低かった
○　自宅の通信環境が整っていなかった（通信速度が遅い等も含む）
○　自宅で自分1人になれる部屋（環境）がなかった
○　Moodle などの操作方法がわからなかった

○　障害になることはなかった
○　その他：

8．遠隔授業を受けていた時の気持ちについて教えてください（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。
○　通常と変わらず、安定的に遠隔授業を受けることができた
○　困ったことを教員に相談できず、不安になった
○　困ったことを友達や先輩に相談できず、不安になった
○　昨年以上に長時間の学修を行ったため、疲労度が高まった
○　その他：

【サポート面】
コロナ禍での大学や大学以外からのサポート面についてお聞きします

1．遠隔授業の際に、あったら良いと思う大学からのサポートはどのようなものでしたか。自由にお書きください。

2．これまで大学独自の緊急支援を受けたことがありますか *
○　支援を受け、満足している
○　支援を受けたが、不満だった
○　支援を受けたくて応募したが、不採択だった
○　支援を受けたかったが、知らなかった
○　支援は受けていない、あるいは、必要なかった
○　その他

2－1．大学独自の緊急支援を受けたが、不満だった方へお聞きします
不満だった理由を教えてください *

3．松山市や大学生協等から学生への食糧支援、生理用品の提供などを受けたことがありますか *
○　支援を受け、満足している
○　支援を受けたが、不満だった
○　支援を受けたかったが、知らなかった
○　支援は受けていない、あるいは、必要なかった
○　その他

3－1．食糧支援、生理用品支援を受けたが、不満だった方へお聞きします
不満だった理由を教えてください *

【生活面】
長期化するコロナ禍での生活面についてお聞きします

1．前期（1Q/2Q）の遠隔授業期間において、どのような経済的な影響がありましたか（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。
○　アルバイトに入る回数や時間に変化はなかった

○　アルバイトに入る回数や時間が減った
○　アルバイトに入る回数や時間が増えた
○　アルバイト先が休業したり雇止めにあった
○　新たにアルバイトを始めた
○　保護者からの仕送りに変化はなかった
○　保護者からの仕送り額が減った
○　保護者からの仕送りがなくなった
○　保護者からの仕送り額が増えた
○　その他：

2．就職活動にどのような影響がありましたか（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。
○　就職活動に変化はなかった
○　希望していた企業や自治体が募集を停止した
○　公務員試験や就職試験が延期になった
○　希望していた企業や自治体の応募を諦めた
○　Web 面接など、オンライン化された
○　志望業界を見直した（変更した）
○　就職活動をやめた
○　4回生以上ではない、または就職活動はしていない
○　その他：

3．遠隔授業期間において、メンタルヘルスにどのような変化がありましたか（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。
○　通常と変わらず、安定的に過ごした
○　物事に対してほとんど興味が無くなった、楽しめなかった
○　気分が落ち込んだ
○　寝つきが悪くなった、途中で目が覚めた、反対に眠り過ぎた
○　疲れた感じがした、または気力がなかった
○　食欲がなかった、あるいは食べ過ぎた
○　新聞やテレビを見ることなどに集中することが難しかった
○　生活のリズムが崩れた
○　家族に会えず寂しかった
○　友達に会えなかったり課外活動が行えず寂しかった
○　その他：

4．長期化するコロナ禍で、メンタル不調により医療機関やカウンセリングに行きましたか（無回答可）
○　受診したことがある
○　受診したことがない
○　迷ったが受診しなかった
○　その他

5．今年度、遠隔授業が始まった４月、あなたの生活において、どのような影響がありましたか。自由にお書きください。

6．その後、遠隔授業が1、2カ月続いた頃、あなたの生活において、どのような影響がありましたか。自由にお書きください。

7．夏休み、あなたの生活において、どのような影響がありましたか。自由にお書きください。

【協力して頂ける方のみ】謝礼：クオカード3,000円

本プロジェクトでは、学生の皆さんにコロナ禍での大学生活の記録を手記としてまとめていただきたいと希望しています。手記の締め切りは11月末日で、1,200字程度です。手記をお寄せいただいた方には、謝礼（クオカード3,000円分）をお出しします。お引き受けくださる方は、青木と鈴木（下記の宛先）までメールにてご連絡ください。連絡頂いた学生さんには、青木から依頼のメールを致します。

宛先：青木理奈：*********@ehime-u.ac.jp、鈴木靜：*********@ehime-u.ac.jp
件名：「コロナ禍における法文学部学生の手記について」
本文：お名前をフルネームで書いてください。
こちらから連絡しても良いメールアドレスを正しく書いてください。
以上です。
質問は以上です。ご回答ありがとうございました。

資料2.「遠隔授業の際に、あったら良いと思う大学からのサポートはどのようなものでしたか」に対する全回答（自由記述）

食事、食品サービス。
ポケット Wi-Fi 等の貸し出しがあれば、非常に有用ではないかと考えております。
MicrosoftTeams 等を活用して、授業時間外でも学生同士で連絡を取り合ったり自主的に勉強することができるような体制があればいいと思います。
定期的なメンタルケア。
メンター制度のように、質問がすぐできるシステムがあったら良いと思う。
Wi-Fi レンタル。
気軽にタブレット端末等を借りれる仕組み、メディアセンターの開放。（教室・座席が少ない）
遠隔授業受講可能な教室の提供。
シラバスに書いてあるメールアドレスだと教員に繋がらないのは困る。先生によっては初回のレジュメに載せる方もいるが、授業が対面でやるのか遠隔でするのか連絡が遅く、確認を取りたいときにとれなかった。私はどうしても福岡に行かなければならない事情があり、しかし、対面ですというメールが来たのが前日の午後3時で、当日の朝一の飛行機でとんぼ返りしたこともあった。
通信環境面でのサポート。（ポケット Wi-Fi、マイク付きイヤフォン、モバイルバッテリーなど）
大学で遠隔授業が受けられ、周りに迷惑をかけず発声ができるように部屋数を増やしてほしい。
教員と生徒の相互的な関わり、一方的に課題を出された後に一方的に課題の評価を受ける場合がある授業が昨年多かった。
グループワークや受講生同士や先輩とのつながりができる機会が欲しかった。
学友同士の交流がなくなり、精神的に疲れるので、（対面の方が尚いいが）オンライン上で何か交流できる機会があるといい。人と顔を合わせて会話をするという経験が少なくなるので、そこを補填するサポート。
遠隔授業のやり方などの指針を出してくれること。
学生同士の交流の場を設けてほしかった。

イヤホンの貸し出し。
遠隔授業をやめてくれ。
遠隔授業専用のレポートの書き方を教えて欲しかった。
課題やレポートの書き方を示してくれる仕組み。
学生同士でコミュニケーションが取れる機会。遠隔授業だと学生同士が話しにくい。
図書館以外の自由に学習できる場所を解放してほしかった。
先生側の Wi-Fi 環境の向上。
レジュメを印刷する際のインクや用紙などの支給。
講義が受講できるスペースの貸し出し。
訪問指導。
ネット環境が整った場の提供。
パソコンを使える場所を増やすこと。
・課題の確認カレンダーが通知設定になっていると良い。 ・親が介護や医療の人は対面に参加しづらいため、オンラインと対面併用で行って欲しい。
レポートの書き方等のお知らせ。
学費を下げる。
インターネット環境へのサポート。
希望する先生と任意で個人面談をすること。
授業料の減額。
どの課題が終わっていないのか確認できるものが欲しい。
夜間授業の時間帯にも気軽に総合情報メディアセンター等で同期授業を受けれる教室があれば良いと思った。
好きな時間に受講でき、通学時間がないことは良かった。
学生の視点から見て事前に分かる困りそうなことがあれば対策を提示しておく。
出席ができているかがわかるもの。
通信障害や通信環境の不具合による教室の貸し出し。
目の疲れをとる工夫をしてほしい。
もう少し課題がちゃんと提出できているかどうかが分かるシステムが欲しかった。（課題が出したのに出てない判定になって単位を落とす不安が大きかった）
各授業せめて一回は対面授業か同期型の授業を行って欲しかった。
対面授業と遠隔授業が混在している学生のための教室をもっと増やしてほしい。メディアセンターだけでは不十分であると感じた。
課題が提出できているか確認できること。
用紙やインク代などの支給。
以前まで使っていた Wi-Fi が古く、今回のリモート授業のために月額のレンタル Wi-Fi ルーターのプランに新加入したため、その補助金が多少あれば助かった。
全同期型授業で講義を録画して開講期間中に見直せるようにすること。
課題提出期限が迫った時の通知機能。
MOODLE では、後になって、提出したものがきちんと提出されているかよくわからないので、後になっても安心して自身の課題提出状況を確認できる仕組みが欲しい。
課題や授業のリマインド。

課題の期日をもう少し分かりやすくまとめられていたら提出忘れも防げるのでは無いかと思う。
よかった。
プリントのコピー。
課題提出の締め切りが一覧になってわかりやすいものであればいいと感じた。
zoom をする時に Moodle だけでなくメールでもアクセス先を送って欲しい。
レポートの書き方についての説明。

資料3.「今年度、遠隔授業が始まった4月、あなたの生活において、どのような影響がありましたか。自由にお書きください。」に対する全回答（自由記述）

遠隔と対面があり、移動や場所の確保が困難だ。
就職活動と重なり遠隔授業のため何気ないことを友人と話せないことが大変だった。
毎日課題をすることに忙しい、時々ある課題忘れてしまいます。
殆どの授業が遠隔であり元からインドア気質なのもあってか家にこもるようになった。
大学へ行かず、パソコンに向かい続ける生活に嫌気がさしてきた。 疲れた。
部活ができなかった。
学校があればほぼ毎日友達に会えるが、遠隔授業だと自宅で受けていたので友達と会わず1人で過ごす時間が多くなった。
一人の方が好きなので、とても快適だった。
生活リズムが乱れた。
外出したり友人と会う機会が減ったために不安な気持ちが大きくなった、メリハリがつけにくくなった。
家から出ることがほとんどなくなり運動不足になった。
また、対面なしかーと思い、やる気が出なかった。
一人暮らしの費用が浮いたり、ホームシックの危険性がなくなって大変満足している。
愛媛大学は第一志望校ではなかったので、とても落ち込んだ。
就活が対面だったので地元に戻った。
1回生の時と変わらず、継続的なオンライン授業が続いた。大学生という感じはないが、マイペースで勉学できるのは良かった。おかげで履修科目を多く履修できた。
参加を予定していた成人式の中止が決まり、まん防の影響もあって帰省出来なくなった。代わりに、実家からの近況報告の電話と、食料品の仕送りが増えた。
就活で県外移動が多く、その中で大学に用事があってもかなり間隔を開けて行くしかなく面倒だった。
元々、教室で授業を受けることに強い不安を持っていたため、遠隔になったことで救われた部分もある。
今年も遠隔かという憂鬱な気分になった。
気分が落ち込み生活ができなくなった。
バスで通学する必要がなくなったので交通費の出費が無くなった。
課外活動が停止し、好きだった演奏へのモチベーションが下がった。4月上旬に対面が一時再開していただけに遠隔に戻った時のショックも大きく、悲しかった。大学に対面授業再開の期待をやめた。
アパートを引き払い実家に帰ったことで心身共に健康になった。
提出すべき課題が多く、自分の好きなことに割く時間が無かった。
生活のリズムが崩れた。

遠隔の方が楽で効率が良いと思った。
昨年と変わらず鬱病を発症した状態で死にたかった。それは今も変わらない。
人にあまり会わなかったので寂しかった。
新しい友達がなかなかできなかった。
友人がほぼできず、新天地での生活だったので困ったことがあっても相談ができずに苦労した。
最初の2週間ほどは対面授業があったので、全面オンラインになった時ものすごくがっかりしました。
友達が少ない。
強い孤独感。
通学に1時間ほどかかるため、通学時間が無かった分勉強時間に費やせた。
直接会って人と話す機会がほぼなくなった。
ずっと家にいることで、気分転換しづらく家では集中できなくなった。
友達に全く会えず満たされない日々にうんざりした。
学年があがったという実感があまりわかなかった。大学での講義がなかったために就職活動の情報交換などができず、就職活動を進めるのが不安だった。
去年に続いてかと思い、少し精神的に疲れた。
何をしに愛媛に来たのかわからなくなった。
非同期が多かったので、時間の融通がききやすかった点は良かったと思う。ただ、通学をしなくなりほぼ歩かなくなったので、体力が落ちていると感じている。
通学時間がかからず、公務員試験の受験勉強に打ち込むことができた。
大学に入学してすぐ遠隔授業になり、どうしていいかわからず心細かった。
対面講義だと休憩時間に卒論や就活、講義のポイントなどを共有していたがオンラインでは行いづらくなったため、それらへの不安が大きくなった。
自分がしっかり授業を理解できているかが分からず、とても不安になった。また、自身の進路に対する不安が大きくなった。孤独を感じた。
感染が再拡大したため友達に会いにくくなった。
昨年度と同じ状況で、うんざりし始めた。 気分の落ち込みや不安定さが増した。
友達がいなくて、Zoom の操作等もわからず地獄のような毎日だった。
4月の時点では対面授業が少しずつ始まり、外出することも多くなった。
想像している大学生活と全然違う、友達も出来ず、退屈な生活を送っている。
精神的にとても疲労した。
勉強をするようになった。
家にいることが多くなった。
生活リズムが崩れた。
わざわざ一人暮らしを始める意味はあったのか考えることが多かった。
人と会う機会が減り、勉強か部活かバイトかの選択だった。
いつ通信が乱れるかわからないのでパソコンの画面に過度に集中してしまい精神的疲労を感じた。
高校よりも楽だった。
眼精疲労がひどくなり目以外に症状が現れだした。
課題が普段より多く、他の勉強（大学以外の勉強）や趣味といった自分がしたいことに割く時間が減ったことが1番大きな影響だった。

遠隔授業に慣れ、不便なく授業を受けれた。
昼夜逆転した。
希望のコースに進めず、遠隔授業も他人事に感じ無気力になった。
生活が充実しているとは思えなくなった。
人との交流が減り、寂しさを感じることが増えた。
今年の１月からずっと遠隔だったので、またかーと思った。
一か月間は対面が一つもなかったため実家で過ごすことができた。
去年同様通学する必要が無くなったため、3ヶ月4万円の定期代が浮いて、経済的に余裕ができた。
一人暮らしを始めて1週間で慣れない環境が原因で1度体調を崩した。
午前中に起きていることが少なくなった。
履修登録については何を取ればよいのか、卒業要件を満たすためにどのような計画を立てたらよいのか、また授業等に関しても、わからないことをすぐに解決できる手段がなく、不安なスタートでした。
昨年に引き続いて遠隔授業中心であったため、それほど不便には感じなかったが、講義に身が入らないことが多々あった。
家が大学から少し遠いため、通学時間が無くなったのは良かったが、生活リズムや勉強の習慣化ができなかった。
遠隔授業のためのパソコン操作に慣れるのに精一杯だった。
迷える子羊のようにおびえていた。
同級生と会う回数が減った。
コロナ疲れ。
バイト入る時間や回数が増えた。自分の時間が作れた。
逆に講義まで時間があるので寝すぎてしまうこともあった。
家族以外の人と話すことが減った。
遠隔である方が、親が介護職であるため授業を受けやすかった。
同期型でないと思っていた授業が同期型になり、バイトのシフト調整が難しかった。また今更家から出ることが億劫になり、このまま遠隔授業が続いて欲しいと思うようになった。
通学時間がなくなり、時間に余裕ができた。

資料4.「その後、遠隔授業が1、2カ月続いた頃、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか。自由にお書きください。」に対する全回答（自由記述）

人と喋る時間が少なくなった、気分が落ち込むことが増えた。
遠隔授業になれました。
遠隔授業に慣れていて、対面式が面倒だと感じることもある。
毎日決まった時間に授業があるわけではなく同期型の講義もそこまで多くはなかったので生活リズムがかなり崩れるようになった。
授業以外にもサークル活動などで制約が多く、心が折れる。
自分の時間を充実させるために工夫するようになった。
気分転換できる状況と時間がなかった。
たまに友達の家に行って一緒に授業の課題をするようになった。

通学時間がなくなり、その分有意義に過ごせた。
食欲が減った。
就職活動のため、感染対策をしながら、説明会や試験等に参加した。
在宅時間が増えてストレスにより体調を崩すことがあった。
実家に長期間帰った。下宿先の家賃や水道代はそのままだったので少し残念だった。
慣れた。
多少起床時間と就寝時間が遅いほうに変移した。 しかし、朝早くから大学に行かなくてよかったため、自由時間が増え、今までならやろうとも思わなかった資格の勉強にも手を伸ばせるようになった。
憂鬱になった。意味があるのかと不安になった。
対面就活が続き、松山に戻れなくなった。
去年と違い、少しモチベーションが上がらず、外出するのすら億劫と感じるようになった。
図書館に行きづらかった。
リアルタイムで授業を受けることが減ったため、生活のリズムが乱れることがあった。
ストレスを感じるようになった。
実家に戻り療養したこともあり少し回復し授業を受けることはできた。
（そもそも履修していた教科が多かったが）課題が多く、その課題をこなすのに精いっぱいで、余裕のある生活を送ることができなかった。
旅行に行けた。
生活のリズムが崩れた。さらに、物事に対してほとんど興味が無くなり、気力がなく、食欲がなかった。
時間効率を意識した生活になった。
希死念慮が募るばかり。
筋トレや自炊など、自分のメンタルや身体のためになることをするようになった。
貯金が無くなった。
昼まで寝てしまうことが多かった。
生活リズムが崩れた。
友人に会えない上に外に出ない日々が続いたので、鬱っぽい状態になったりもしました。
遊びに行くことがない。
遠隔授業に慣れた。
体を動かす機会が減った。
対面授業が増えるとむしろ心身ともに疲弊するのではないかと思った。対面授業がメインだった頃を知らないので、コロナ禍で染み付いた生活リズムでは単位を取得できる気がしない。
普段だと友人と相談しながらやる課題など、一人でやるのが大変だった。お家時間が増えると精神的に不安定になることが多かった。
コロナが落ち着いている時は、カフェなどで1、2時間過ごす習慣をつけた。
したい勉強の時間が取れたことで、集中できた。
何に疲れているのかが分からず、ずっと疲労感が続いた。寝ても取れない。
体調が悪くなりがちだった。（食欲低下、集中力欠如等）
パソコンを用いた授業には慣れてきたものの、座りっぱなしになるので腰を痛めた。
遠隔の方が自分で自由に受けれるだけでなく、すぐにインターネットでわからないことを調べられるため専門的な科目で zoom と対面を併用して行っていたのはとても有り難く感じた。

一日中家にこもって勉強する必要があり気分が落ち込むことがあった。
交友関係を深めたりなどができなかったり、人と話すことがなかったりして、もの悲しかった。
就活以外で外に出る機会がなくなったため、運動不足を感じるようになった。
バイト以外で外に出ることがなく、気分が落ち込んだ。人と話す機会が無くなった。一時的に人と会うのが怖くなった。
運動不足になり体力が落ちてしまった。
人と会わずに勉強とバイトだけを続ける日々でひどく気が滅入った。
勉強する気がなくなって、どうしたらいいかわからなかった。バイトをまだ始めていなかったので毎日家に篭りきりで気が狂った。
交通費が浮いたし自分の時間が増えた。
課題をこなすのに忙しい日々だった。
無気力になることが続いた。大学生活を送る目的が分からなくなった。
とても忙しいが、勉強を続けている。
友達が中々できないため、悩んだことを相談できる人がおらず孤独を感じていた。
慣れた。夏休みに帰省したのでそのために頑張っていた。
家にいる時間が長くなった。
徐々に授業が怠慢になるようになった。
慣れた一方で対面授業を受けたい気持ちがわいた。
家とバイトの行き来だけなので疲れることがなく眠れなかった。
眼精疲労がひどくなり目以外に症状が現れだした。
基本的に一人で授業を受けていたため少しモチベーションが下がっていた。不便はなかった。
課題を忘れてしまうことがあった。
感染が増えている状況では、遠隔授業の方が安心できると感じました。
無気力になり課題提出が叶わなかったが、そういった自分の状態を責めて溜まり続ける課題に向き合えずPC を開くことが精神的に不可能になった。単位取得もなにひとつできなかった。
学生とは思えない暮らしになった。
友達と会う機会が減り、気分が落ち込むことが多かった。
GW に帰省したが、愛媛に帰るのが嫌になりそのときバイトもしていなかったので１か月くらい実家にいた。
一科目のみ対面になったため、愛媛県で一人暮らしを本格的に始めた。
去年よりも遠隔授業を受けるにあたっての要領を掴むことができるようになった。その日に出た課題はその日中に終わらせるなど、以前と授業に対する姿勢も変わった。
課題をやる時期が特定の日に集中し、不規則な生活を送ることが多々あった。
全ての作業が夜中心になった。
4月当初に比べると少しずつ慣れてきて、自分なりに対応するということができるようになりました。
生活リズムが大きく崩れた。
公務員の勉強も始まったため、かなり余裕がなくなった。
後期の自分の学習に対する意欲が前期に比べ下がっていると思う。
いろんな活動をしたかったが、状況が許してくれそうになかったので、ひたすらに鬱憤の溜まる数か月であった。
学生間で授業や就職活動の情報共有する機会があまりなかった。

バイト入る時間や回数が増えた。自分の時間が作れた。
人に会えない状況が続き、少し孤独を感じた。
昼夜逆転してしまうこともあった。
気力がなくなる時があった。
バイトが減った。
生活のリズムが夜に移行し、遅い時は朝の4時や5時辺りまで遠隔授業のため宿題の比重が重く、レポート等の課題をすることが多かった。
視力が落ちた。

資料5.「夏休み、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか。自由にお書きください。」に対する全回答（自由記述）

就活で実家とを往復したためバイトに入れず収入がなくなったことが大変だった。
実家に帰れなかった、遠出などが全く出来なかった。
できるだけ遠出は避けた。
全てのインターンシップや面接がオンライン化し、自宅で全て就職活動が完結したという影響がございました。
外に出ることが減った。
今治で実家ぐらしをしているが、授業期間とは違い友達に会うことが距離的にも感染状況を踏まえても難しく、孤独を感じで体調を崩すこともあった。
バイトを4月から始めたのだが特にサークルにも所属しておらず帰省もできなかったためかなりの日数をバイトに費やした。
コロナを気にせず遊ぶ人、まじめに自粛する人の差にあきれている。疲れている。
アルバイト先の飲食店が時短営業になったため、思うように稼げなかった。
正しい生活リズムに戻そうと努めた。
就職活動のため、面接練習、実際の面接をオンラインで行った。
対面でのサークル活動が一切なくなり友人と会う機会が減った、親戚が他県から帰ってきたために自由に外出できなかった。
想像していたようには過ごせなかった。
遠出や帰省ができず暇だった。
大学の夏休みがとても長いことを実感した。アルバイトに遊びと、思い描いていた大学生活を送れた。
集中講義を対面でするということを最初聞いたので、友達を作るためにたくさん取ったが、結局すべてオンラインになり、友達は出来なかった。
半年近く実家にいたため、払い続けた家賃が気になった。
どこにも遊びに行けず、地元にも帰らなかった。
夏休みは、通常の場合だと旅行などでリフレッシュ出来ずに、コロナワクチン接種をしたため、不調が続いているうちに終わった。
バイト先が数週間程休業したが、その期間中も別件の仕事の手伝い等をさせてもらえたので、収入に大きな変化は無かった。また、帰省は出来なかったが、その分サークル活動に打ち込むことができた。
行動したくても感染状況からして困難なところがありもどかしかった。
自分の居場所となる場所をみつけそこで活動をして人と関わるうちに精神が不安定になることが減った。ゼミの研究発表会などもあって忙しかった。

ほぼ毎日公務員講座の授業を受けていた。その講座の影響で、夏休み中にアルバイトを辞めた。
高校の友達と今年こそは会えると思っていたが会えなかった。
博物館実習だったが、コロナの影響で休館中だった。実習先の博物館さんの工夫でコロナ禍だからこそ体験できたこともあるが、例年だと来客のある状態で実習ができていたのかと思うと複雑。帰省・愛媛県への帰県が自由にできない。
帰省を中止した。
ワクチン接種があって少しだけ安心した。
遠隔授業の場合、夏休みでなくても旅行、外泊等がしやすいため、夏休みだから特別何かしようという気が起こらなかった。
会いたい人に会えなかった。
生活のリズムが崩れた。また、友達に会えず寂しかった。
楽しかった。
バイトル先が休業してしまい、収入が減った。
アルバイトも無く、インターンシップも無くなってしまったので、実家にこもっていた。
旅行に行けなかったので、バイトばかりの日々であった。
集中講義が全面オンラインだったことが残念でした。遠出できなかったこともかなり残念でした。友人と会うのも難しかったので、オンラインで遊ぶなどしました。
帰省が出来なかった。
ゆっくり過ごすことができた。
自由だった。
一人でできる自分がやりたかったことをやった。帰省した時に家族と会った以外は人と会うのはアルバイトのときだけだった。
非接客のアルバイトを始めた。
夏休みという実感がなかった。
県内の日帰り旅行に行けず、リフレッシュすることができなかった。
実家に帰れず寂しい思いをした。
対面のインターンシップに行けなくなり、オンライン1day にしか参加できなかった。
一人で過ごす時間が長くなった。
1週間外に出ないことがあった。
就職活動のことを相談する機会が減り不安だった。
実家に帰ろうとしたが、コロナウィルス蔓延の影響により帰ることができず、また同期間友達等と触れ合う機会がほぼなかったためさみしい思いをした。
就活ではオンラインと対面の面接が企業毎で様々で、それぞれの対応をしていくことは緊張感があった。
実家に帰り、家族と暮らした。
中国の語学プログラムを受講したが、本来ならば中国に行けたのだろうと思うが全てオンラインで実施された。また、学外で参加しようと思っていた講演会・イベントがオンラインになったり中止されたりした。
バイトが全て休みになって収入に困った。また、一人で過ごす期間が長いけど何も気力が湧かなかった。
生活リズムを整えることを意識して夏休みを過ごした。
家族と過ごすことができた。
ひたすら働いていた。
帰省できなかった。

帰省しても地元の友達に会うのをためらってあまり会えなかった。
部活も停止されたので、ずっと勉強をしていた。
自粛生活が続き体力が落ちた。
バイト以外することがなかった。
今後のために図書館や資料館といった所に行きたかったが、コロナのせいで閉まっていたり、他県に行けなかったりと充分な活動を行えなかった。
蔓延防止対策もあり、課外活動、アルバイト共にとても制限され、ほとんど人と会わずに過ごした。
ほとんどを家で過ごした。
サークル活動が満足にできなかった。
帰省して昼夜逆転状態を是正した。
旅行に行けなかった。
家で1人で過ごすことが多く、寂しさを感じることが多かった。
バイトにたくさん入った。9月の後半に実家に帰った。久々に友達と会えて嬉しかった。
実家には帰省することができ、家でゆっくり過ごせた。
実家に帰省し、教習所へ通ったこと以外は外出をほとんどしなかった。
何もしない日が多かった。
友人に会ったり、外出することは全くと言っていいほどなく、他の人も同じだとは思いますが、学生らしい夏休みとは程遠い期間を過ごしました。
長期休みなのにどこにも出かけられず友達にも会えないので少しストレスがたまった。
友人と会えず、鬱々とした気分の日が続いた。
集中講義が夏休み期間にオンライン上でしか行えず、後期が始まってから対面授業をすることになった。
夏休みは実家に帰省し、自動車免許取得のための勉強や家族との会話、娯楽など充実していた。
友人と会うのも気が引け、アクティブに活動できなかったが、代わりに文化的活動に時間を費やした。
友人と遠出する計画がなくなった。
帰省を延期しました。
家で過ごす時間が多かった。
外に出る機会は減った。
ほぼ毎日バイトに行き、合計で100時間以上シフトを入れていた。バイトは服装指定だが、大学に行くとなるとある程度衣服はたくさん持って置かないといけないため、その費用をバイト何時間分だなと毎度計算してしまい、外出することも食費にお金をかけることも躊躇われあまり充実した生活は送れなかったと思う。
ほとんど家で過ごした。